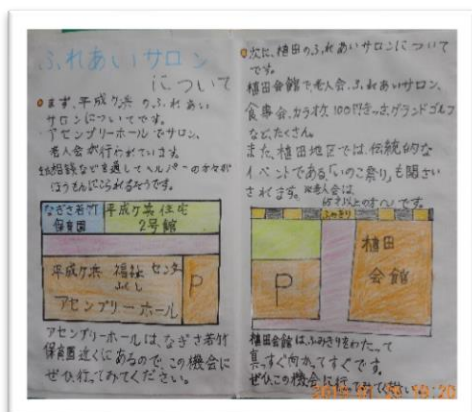


睦月：第10話「地域の中の学校」

5年生は、総合的な学習の時間「考えよう・取り組もう！福祉」の単元で、高齢者にとって住みやすい町づくりについて学習しています。



坂町には、高齢者のためのサロンや老人会があります。子どもたちは、インタビューを通して、「世話をしている人は、健康に過ごしてもらい、お互いが助け合い、気持ちを通じ合う関係を築いてもらいたい」と思っていることや、「地域のみんなと顔を合わせることで元気になる」ことを学びました。

また、高齢者の方が安全に道を歩くために、坂町の道路をみんなで歩きまわり、「安全ブック」を作りました。車をよける場所が



少ない狭い道や、歩道のない道をさがして、写真に撮り、地図に記入していきました。この安全ブックは集会所に置いたり、高齢者の方と児童の交流会において、見てもらったりしました。高齢者の方からは、

「安全ブックに書かれている危ない道を参考にして、安全に努めたい」という言葉をいただきました。また、写真に「丁目や番地」、それに「東西南北の方位」が書かれていると、なお分かりやすいことを教えていただきました。

そして、高齢者の方がどんなときに笑顔になり、「うれしい」「楽しい」という気持ちになるのか、直接お尋ねすると、「挨拶をしてくれるとうれしい」「子どもと話すのは楽しい」「声をかけてもらうとうれしい」という意見をたくさんもらいました。



さらに、坂町で取り組

まれている「元気健康法」を調べたグループもありました。

「水中ウォーキング教室」、いすに座ってできる体操やタオルを使った運動を行う「筋力アップ教室」、音楽に合わせてエアロビクスやウォーキングをする「100万歩 歩いて元気になろう会」等。

また、平成24年から毎年3月に行われる坂町悠々健康ウォーキング大会では、緑豊かな自然や潮の香り、島影の美しい風景を味わうことができるため、多くの人に参加していることがわかりました。



今回の学習で、高齢者の方から、「高齢者になると、遠くへあまり行けないので、サロンがあるとよい」、「会話をするのは楽しいので、もっと小学生の人たちに来てほしい」等、直接お声をいただいたことが、貴重な学びとなったようです。子どもたちは、作成したパンフレットを見せ合って、高齢者の住みやすい町についてのイメージを広げるとともに、高齢者の思いに触れながら、多様な関わり方について考えることができたように思います。